

1 研究主題

養護教諭が支援する組織的・包括的な生徒指導体制づくり～教師の見取りの統合を通して～

善通寺市教育委員会 指導主事 阿部 絢子

2 研究の具体

(1) 目的

近年、子どもたちを取り巻く社会環境の変化に伴い、いじめや不登校などの学校が抱える課題も多様化・複雑化している中、学校現場においては、生徒指導上の諸課題の深刻化を未然に防止するために、子どもたちの些細な変化を見逃すことなく、早期に把握・対応ができる包括的な支援体制の構築が求められている。そこで、昨年度は、生徒指導面においても重要な役割を担っている養護教諭が専門性を生かし、組織の核となって見取りの統合から包括的な生徒指導を支援する体制づくりの実践研究を行った。昨年度の課題を踏まえて、校種を拡げ、本研究を実践した。

(2) 方法

① 研究協力校の実態調査

研究協力校4校(小学校2校、中学校2校)において、日頃、子どもどのような様子や変化を特に意識してSOSを把握しているのか、SOSに気づいたときにどのような対応をしているのかを把握するために、事前にアンケート調査を実施した。SOSの把握については、「態度・行動面の様子」が約7割を占め、最も割合が高く、日頃の観察から把握している教員が多いことが伺えた。また、SOSに気づいたときの対応については、校種を問わず、子どもへの対応、教職員間の情報共有、組織による対応、家庭との連携がなされていた。なお、中学校の教職員間の情報共有では、校種の特徴として学年団での連携が見られた。

② 実践内容

ア 養護教諭による統合的な児童生徒理解の促進

養護教諭が資料を活用し、教員に対して観察法、面接法、検査法など、異なる方法で収集した情報を統合した児童生徒理解が重要であることを示し、それぞれの場面における見取りのポイントを確認した。

イ 分析シートの活用による統合的な生徒理解

担任や副担任による日常の観察(観察法)、声かけや面接(面接法)、WEB QUやアンケート(検査法)などの見取りを統合して分析できるように、分析シートを作成した。

ウ 支援検討による包括的な生徒指導

分析シートを活用し、問題や課題をアセスメントした上で、多面的・多角的な視点での支援の方向性について検討を行った。

(3) 結果と考察

① 実践後の養護教諭へのインタビュー調査から

分析シートの作成状況については、教員の意識によって異なるが、児童生徒を理解しようと見取りを丁寧に行う姿が見られたり、分析シートを作成する際に教育相談の必要性を感じたことから、新たに教育相談の機会を設定することにつながったりした。しかし、分析・検討する時間の確保は厳しいことが伺えた。

② 実践協力校の教員へのアンケート調査から

WEB QUの活用については、「とても活用できる」「やや活用できる」と回答する教員が約9割を占め、多くの教員が子どもたちの状況を見取る手段として活用できると感じていることが示された。また、分析シートの作成による統合した見取りが子ども理解・支援に役立ったかについては、約9割の教員が「とても役に立った」「やや役に立った」と回答しており、今後の分析シートの活用についても約8割の教員が「ぜひ活用したい」「できる範囲で活用したい」と回答していることから、主観の見取りと客観の見取りを統合して分析・検討することが、児童生徒理解の深まりにつながったと考えられる。

3 研究の成果と課題

研究協力校では、日頃から必要があれば校内でケース会や対策委員会など組織での対応がされている。今回の実践に関しても熱心な取組が伺われた。今後、いじめや不登校などの未然防止に向けて、見取りを統合した児童生徒理解を包括的な生徒指導につなげられるように、教員が負担感なく、できる範囲で分析シートを活用し、組織で支援していけるような体制づくりを市内で進めていきたい。